

平成30年6月22日(金)

老球の細道420号

デニス・ロッドマン健在

会津バスケットボール協会 室井 富仁

6月12日、念願の米国トランプ大統領と北朝鮮金正恩の米朝首脳会談が無事終了した。事前に、会談にあのデニス・ロッドマンが関与するのではというニュースが流れた。金正恩とロッドマンの関係は5年前にも騒がれた。下記は当時私が書いたコメントである。

【1月8日、北朝鮮の金正恩第1書記の誕生日にデニス・ロッドマンが北朝鮮に入学して、自分が率いる元 NBA バスケットボールチームと北朝鮮のチームとで試合をやったというニュースが流された。ロッドマンは昔のまんまの派手な格好で今や悪名高き金正恩とのフレンドリーな関係がメディアで大々的に報道された。何のためにアメリカと正式な国交のない北朝鮮に行ったのか謎が深まっている。

金正恩は NBA バスケットボールの大ファンであり、ロッドマンとはバスケットボールを通じて友人関係になったという。来年からはロッドマンを北朝鮮ナショナルチームのコーチにと要請しているらしい。アメリカでは、このようなロッドマンの派手なパフォーマンスに対して「いかんなー！」と遺憾の意を表しているというが、北朝鮮に情報源を持たない CIA や FBI などはロッドマンの持っている情報に強い関心を示していると言われる。

デニス・ロッドマンとは元 NBA バスケットボール選手である。米ニュージャージー州トレントン出身で、身長203cm、体重105kg。1980年代から90年代にかけて、NBA において当時を代表する優れたリバウンダーであり、歴代でも屈指のリバウンダーであった。(1992～1998年で7年連続リバウンド王)。「ボールの臭いがする」と身体をはってリバウンドにとびこみ、汚れ役に徹する姿は、髪を染め、全身にタトゥーを入れ、女装癖を隠さないなど独特なライフスタイルと相反する人間像が多くの人から注目された。デトロイト・ピストンズとシカゴ・ブルズで5回の優勝経験を持つ。

正式な国交がなく、何かと敵対しているアメリカ、北朝鮮の関係なので、スポーツで世界的に有名なロッドマンが個人的に勝手なパフォーマンスをすることに対しては批判が起こるのは当然だろう。しかし、国と国の関係が険悪であっても、バスケットボールというスポーツを通して1民間人が友好関係を持つと言うことは、最悪の事態(戦争、紛争)を避けるのには良い危機管理かもしれないし、仲良くなれるきっかけになるかもしれない。

1971年に名古屋で行われた世界卓球選手権大会に中国選手団が初めて参加した。それをきっかけに中国がアメリカの選手などを中国に招待して卓球の親善試合を開催した。それが呼び水になって当時険悪な関係にあった米中関係の緊張緩和が実現し、その後日中国交正常化にもつながったことがあった。世に言う「ピンポン外交」である。当時その橋渡し役をしたのが国際卓球連盟会長・荻村伊知朗だった。

国のリーダー達がやっているいがみ合いに一緒になってはいけない。マスメディアから流される相手国の悪いイメージに扇動されてはいけない。一緒くたに異国の人々を決めつけてはいけない。戦いを始めるのはリーダー達であるが、簡単に死んでしまうのは下々の人間達である。こんな理不尽なことを過去の歴史が証明している。

ロッドマン頼むよ、金正恩をボディーチェックで暴走を止めてくれ。オバマ大統領もバスケットボール経験者である。まずはバスケットボールで1:1の勝負をしてみたら】